

歴史のなかの教科書

～英文法から英会話重視へ～

宮城教育大学附属図書館で所蔵している明治から現在までの英語科教科書を展示します

期間

平成 26 年

10/30 (木) ▶▶▶ 11/2 (日) 10:00-17:00

※最終日 11/2 のみ 15:00 まで

場所

名取市文化会館 2F
展示ギャラリー

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田 520



★講演会★

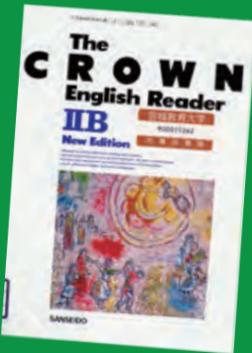
日時：平成 26 年 11 月 2 日 (日) 10:30-12:00

場所：名取市文化会館 3F 小ホール

講演内容：鈴木渉（宮城教育大学准教授）

「英語は早くからやればいいのか？」

—最新の研究成果と大人がこどもにできること—



英語だよ!



時代を映す鏡としての教科書 ～ご挨拶に代えて

附属図書館長 遠藤 仁

このたび名取市教育委員会・名取市図書館のご高配により、10月30日（木）から11月2日（日）まで、名取市民文化会館展示ギャラリーにおいて教科書展を開催するはこびとなりました。

本学図書館の所蔵する教科書を広くご紹介する企画も8回目を数えますが、本年度は「歴史のなかの教科書～英文法から英会話重視へ～」と題し、英語の教科書を中心に展示致します。

平成23年度より、小学校においても「外国語活動」が必修化され、外国の言語・文化について体験的に理解を深めるのみならず、コミュニケーション能力の素地を培うべく様々な活動が行なわれるようになりました。言語形成期にある子どもたちは、母語に限らず外国語の習得も容易だと言われますし、外国語・外国文化に触れることにより、改めて日本語・日本文化を見つめなおすきっかけにもなることでしょう。

私どもの世代が受けた英語教育は、「話すこと・聞くこと」よりも「読むこと・書くこと」と「英文法」に重きがおかれていたように思います。外国は今よりもっと遠く、海外に行けるようになることが、ひとつの夢となりえた時代でした。かつて旅先で、英語で道を尋ねられ、とっさに返答できずに身振り手振りを交えながら近くまで案内したという苦い経験があります。言葉で伝えられないもどかしさを思い知らされた一事でしたが、グローバル化の進展にともない、次代を担う若い人たちには、さらなるコミュニケーション能力が求められることでしょう。

多感な時期、誰もが手にしながら、役割を終えると忘れ去られてしまう教科書。ぜひもう一度、ページを繰ってみてください。懐かしい校舎や教室、厳しくも温かい先生の姿、旧友の笑顔、仲間と汗を流した部活等々、思い出が鮮やかによみがえってくることでしょう。中高生の皆さんは、ぜひ親や祖父母の時代の教科書を手にとってみてください。皆さんがいま学んでいる教科書とどこがどのように異なるのでしょうか。

教科書は、一見同じようなことが書かれているように見えて、学問や技術の進歩、国の施策、文化や社会背景の変化にともない様々な顔をもっています。まさに時代を映す鏡と言ってよいかもしれません。ぜひこの機会に懐かしい英語教科書を手に取りつつ、草創期より現代に至るまで英語教育の軌跡をたどっていただければ幸いです。なによりこの企画が市民の皆さんにとって懐かしい教科書との再会の機会となれば幸いです。

なお、11月2日（日）には「英語は早くからやればいいのか？－最新の研究成果と大人がこどもにできること－」と題し、本学の鈴木渉准教授の講演会も開催致します。ぜひこちらにも足をお運びください。

最後になりましたが、この教科書展の開催にあたり、名取市教育委員会および名取市図書館には全面的なご協力を賜りました。ご尽力くださいました各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも名取市と本学との絆がいつそう強まることを願ってやみません。

展示概要

英語教育講座 鈴木 渉

文部科学省は、平成25（2013）年12月13日に、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表しました。様々な点が提言されているのですが、注目すべきは、まず、現在小学校で行われている外国語活動を教科にして、5年後の平成30（2018）年から実施するということです。次に、中学校でも高等学校と同様に「英語で授業」を基本とするという考えも提言されました。このように、小・中・高等学校の英語教育を通して、コミュニケーション能力を育成する狙いではあるのですが、それと同時に、日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実、つまり、伝統文化や歴史の重視も掲げられていることも重要な点でしょう。このような教育を平成32（2020）年に実施するために、これから英語の教科書が作成、検定、採択されていきます。

今回の企画展示では、明治期から現在までの英語教科書の展示を見て、そして、教科書を実際に手に取ることで、時代や社会の変化や英語教育学研究の成果に応じて、日本の英語教育がどのように変わってきたのかを、少しでも感じていただくことができると思っています。特に、文法中心の学習活動からコミュニケーション中心の言語活動へと日本の英語教育が変わっていく様子を感じ取っていただけるのではないのでしょうか。また、当時の日本がどのような国民を育成しようと試みてきたのかというところにまで、思いを巡らすことができるかもしれません。

至らない点が多々あるかと思いますが、今回の展示を通して、英語教科書の歴史に触れていただき、今後の英語教育の未来を一緒に考える機会になればいいなと思っております。

★展示教科書目録（主な展示物）

- ・ A.S.Barnes 『Barnes' new national readers no.2』明治16（1883）
- ・ Imperial Dept. of Education
『The Mombushō conversational readers no.3』明治22（1889）
- ・ 開隆堂出版 『Jack and Betty : English step by step 1st step』昭和23（1948）
- ・ 研究社出版 『New globe readers standard ed, Book 1』昭和36（1961）
- ・ 三省堂 『The junior crown : English course 1 Revised ed.』昭和40（1965）
- ・ 開隆堂 『New prince : English course 1』昭和49（1974）改訂
- ・ 東京書籍 『New horizon : English course 1』平成4（1992）
- ・ 三省堂 『New crown : English series new ed. 3』平成8（1996）
- ・ 学校図書 『Total English 3』平成17（2005）
- ・ 開隆堂 『Sunshine English course 1』平成23（2011）
- ・ 教育出版 『英語ノート 1』平成21（2009）
- ・ 東京書籍 『Hi, friends! 2』平成24（2012）

他多数展示します。